

## ITUAJより

### 編集後記

「映像を楽しむ場所と言えばテレビの前」というのは、今は選肢の一つです。スマホやタブレットといった様々な端末で、いつでもどこでも映像を見ることができるようになっています。

放送局もこの変化に伴い、様々なコンテンツを作成することが必要となり、その制作環境の効率化に向け、2009年頃からMCMA (Media Cloud and Microservice Architecture) に関する動きが始まっています。その誕生の経緯から、スコープと現状、システムの概要等について今月の特集で解説されています。ぜひ一読下さい。

## ITUジャーナル読者アンケート

アンケートはこちら [https://www.ituaj.jp/?page\\_id=793](https://www.ituaj.jp/?page_id=793)

## 編集委員

- |     |       |                  |
|-----|-------|------------------|
| 委員長 | 亀山 渉  | 早稲田大学            |
| 委員  | 白江 久純 | 総務省 国際戦略局        |
| 〃   | 高木 世紀 | 総務省 国際戦略局        |
| 〃   | 三浦 崇英 | 総務省 国際戦略局        |
| 〃   | 羽多野一磨 | 総務省 総合通信基盤局      |
| 〃   | 成瀬 由紀 | 国立研究開発法人情報通信研究機構 |
| 〃   | 岩田 秀行 | 日本電信電話株式会社       |
| 〃   | 中山 智美 | KDDI株式会社         |
| 〃   | 福本 史郎 | ソフトバンク株式会社       |
| 〃   | 熊丸 和宏 | 日本放送協会           |
| 〃   | 山口 淳郎 | 一般社団法人日本民間放送連盟   |
| 〃   | 側島 啓史 | 通信電線線材協会         |
| 〃   | 中兼 晴香 | パナソニック株式会社       |
| 〃   | 牧野 真也 | 三菱電機株式会社         |
| 〃   | 東 充宏  | 富士通株式会社          |
| 〃   | 飯村 優子 | ソニー株式会社          |
| 〃   | 江川 尚志 | 日本電気株式会社         |
| 〃   | 岩崎 哲久 | 東芝インフラシステムズ株式会社  |
| 〃   | 中平 佳裕 | 沖電気工業株式会社        |
| 〃   | 三宅 滋  | 株式会社日立製作所        |
| 〃   | 金子 麻衣 | 一般社団法人情報通信技術委員会  |
| 〃   | 杉林 聖  | 一般社団法人電波産業会      |
| 顧問  | 齊藤 忠夫 | 一般社団法人ICT-ISAC   |
| 〃   | 橋本 明  | 株式会社NTTドコモ       |
| 〃   | 田中 良明 | 早稲田大学            |

## 編集委員より

### ICTで優しい社会を



一般社団法人日本民間放送連盟

やまくち じゅんろう  
山口 淳郎

2回目の巻末言執筆依頼が届きました。前任者からは、委員任期の間に1回まわってくるくらいだと言われ引き継いだ記憶があるのですが……。さてどうしたものかとネタを考えていたところに、たまたま、民放連が隔月で発行している機関誌「民放」5月号が届きました。特集は「すべての人に優しい放送-情報バリアフリーのために」です。

バリアフリーと聞くといつも思い出すのが、もう40年前の作品ですが、NHKで放送されたドラマ「男たちの旅路」シリーズ中の「車輪の一步」(1979年放送)です。何度か再放送されているので、ご覧になったかたも多いと思いますが、誰かの助けなしに車椅子で外出することが困難な状況が描かれていました。

ドラマで訴えていたのは設備面のバリアフリー化ではありませんでしたが、交通バリアフリー法が施行されたのは、その放送から20年もたった2000年でした。その後、ここ10年ほどでしょうか、鉄道各社ではエレベーターの設置を進めるなど、駅のバリアフリー化が急速に進みました。

実は、放送分野においてもアクセシビリティ向上が強く求められています。テレビ放送はデジタル化により、字幕機能や音声多チャンネル化など、技術上の環境は進歩しました。しかし、番組に字幕や解説を付与するには大変な手間がかかります。音声の自動認識技術も進んでいますが、僅かでも誤認識の可能性があれば放送で使うことはできないため、人手をかけて字幕制作を行っているのが現状です。

テレビに音声認識機能を搭載する方法もあるかもしれませんが。とはいえ、画面上に無秩序に文字が表示されては邪魔になりますし、誤認識があった場合に、それが放送局側の問題と誤解されては困ります。直接テレビ画面に表示せず、セカンドスクリーンを活用する方法も検討されているようです。

ICT技術の進歩と活用により、人に優しい社会が実現することを期待します。

## ITUジャーナル

Vol.49 No.7 2019年7月1日発行/毎月1回1日発行

発行人 福岡 徹

一般財団法人日本ITU協会

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-17-11

BN御苑ビル5階

TEL.03-5357-7610 (代) FAX.03-3356-8170

編集人 岸本淳一、大野かおり、石田直子

編集協力 株式会社クリエイト・クルーズ

©著作権所有 一般財団法人日本ITU協会